

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	フードバンク山口ほうふステーション事業
資金分配団体名:	中国5県休眠預金等活用コンソーシアム
実行団体名:	特定非営利活動法人市民活動さぼーとねっと
実施時期:	2021年7月～2021年12月
事業対象地域:	山口県防府市
事業対象者:	コロナ禍による経済的な困難を抱える家庭やひとり親家庭など

Version 3.2

日付: 2022年1月14日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>当法人では2020年6月より、防府市においてフードバンク山口ほうふステーションを運営し、防府市内での食支援のセーフティネットとして役割を果たすようになってきている。しかしながら、収容面積の限界、新型コロナウイルス感染拡大予防に伴う子ども食堂などの活動の停滞により必要な家庭に支援が届かないといった課題を抱えていた。</p> <p>本事業によって、新たな倉庫の確保による収容能力の拡大と冷蔵・冷凍庫・調理設備を備えるという機能の拡充、自団体の基盤強化に向けた資金調達の計画づくりなどの取り組みを行った。</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>当初は新たな倉庫と冷蔵庫・冷凍庫・厨房設備を備えるという単純な機能拡充を想定していたが、岡山県で始まったコミュニティフリッジ（一般社団法人北長瀬エリアマネジメント運営）の取り組みのネットワークに加入し、ノウハウ移転を受けることでの食品管理や寄付者管理のIT活用や作業の効率化、全国的なメディアで取り扱われる波及効果などのメリットを受けることができた。</p> <p>本事業をどのように展開するか検討する中で、新設した設備を「防府コミュニティフリッジ」として、利用する対象を経済的な困難を抱えるひとり親家庭とし、既存のフードバンク事業との事業整理を行い、この事業を行う意義をひとり親家庭の支援と明確に位置付けた。それらを行うことで、自団体の地域での役割が新たに定義づけられ、これまでとはまた違った新たな共感者や支援者を募ることにつながった。</p>
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
ひとり親	事業実施上の困難	ハード整備 ・倉庫設備と関連システムが整っている ・厨房機能が整備されている	・整備された倉庫の有無 ・購入した冷凍冷蔵庫の有無 ・増設された厨房機能の有無 ・倉庫開錠システムの有無	・倉庫の整備完了 ・冷凍冷蔵庫の納品 ・厨房機能の設置完了 ・開錠システムの導入完了	施設の賃貸契約し、改修工事を実施。2021年10月倉庫や厨房設備の設置、開錠システムの導入はでき、11月2日に開所式を行った。 冷凍庫・冷蔵庫は生産の遅れから2022年1月納品予定。	倉庫と厨房設備についてはおおむね計画通りに整備が進んだ。 新型コロナウイルス感染症の影響による生産の遅れにより、冷蔵庫・冷凍庫の納品は2022年1月の予定。 中古の冷蔵庫をもらい受け、それで代用しながら、機能的には冷蔵品の提供は可能とすることができたが、開所式に合わせての視覚的に分かりやすい広報としては遅れが生じた。
その他	その他	組織基盤整備 ・自団体の中長期的ファンドレイジング計画と短期行動計画が策定されている	・策定された計画の共有または公開	・長期的計画を策定、短期的計画を策定（初期版、見直し版）	全国コミュニティ財団協会よりアドバイザーを派遣（オンライン）してもらい、自団体内で理事・職員を含めた勉強会を実施（7月26日11名参加、9月10日11名参加） 理事会で短期～中期計画の作成と見直しを実施（9月27日、11月15日）	本事業の展開や共感者を増やしていく計画策定のために、先駆的な取り組みについて話を聞き、自団体や本市に於いて実践するための検討を行った。9月に短期～中期的な計画を策定、その後事業の進捗とともに11月に再検討を行った。その一連の流れの中で、事業だけでなく、自団体が地域でどのような役割を担っていくのか、その方向性なども役職員とともに考えることができた。
その他	事業実施上の困難	・民間主体での課題解決のしくみづくりに関する学習会が継続的に開催されている	・勉強会参加者リストの作成	・勉強会の参加者数：10名/回	全国コミュニティ財団協会よりアドバイザーを派遣（オンライン）してもらい、外部も交えた勉強会を実施（11月29日25人参加、12月17日6人参加）	民間主体の課題解決のしくみづくりについて、戦略的な内容と事務的な実務の話を開く勉強会を行った。 中間支援者だけでなく、子どもの支援に関わる関係者や自治会関係者などの参加があり、これまでとは違った属性の方とともに今後のしくみづくりの必要性を認識する機会となった。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<p>ハード整備</p> <p>1) 冷蔵保存食品や生鮮食品など対応品目が増え、受入取扱量が現行2.9トン/年から4トン/年に増加している。</p> <p>2) 子ども食堂や児童民生委員やスクールソーシャルワーカーなど支援機関に提供する支援物資の提供件数が増え、現行で延べ250回程度/年から延べ500回程度/年に増加している。</p> <p>3) 経済的な困難を抱える家庭やひとり親家庭などへの食品配布数が増え、現行で50世帯から100世帯に増加している。</p> <p>4) 厨房施設が整備されることにより、3)の世帯に対して現行で年1回の弁当配布実施（50世帯）が、100世帯中20世帯程度に対して週1回に増加している。</p> <p>組織基盤整備</p> <p>5) コミュニティ財団設立など、民間主体の課題解決のしくみづくりについてノウハウを共有するメンバーが増え、財団設立などを検討する会が発足している。</p>
----------------	--

考察等	<p>事業実施期間中に以下のような変化があり、目標とする状況に向かって前進していると考察する。</p> <p>1) 既存のフードバンク事業以外に、コミュニティフリッジに対して、2021年11月～12月の期間で、食品1636個 約856kg、日用品 804個の寄付を受けた。</p> <p>2) 「防府コミュニティフリッジ」としての利用対象を経済的な困難を抱えるひとり親家庭とし、こども食堂等の利用はフードバンク事業で対応するという事業整理を行ったため、提供回数は大きな増加はないが、生鮮食品などの寄付が大量あった場合などに派生的に提供する機会も起こっている。</p> <p>3) 2021年12月末時点で14家庭の利用登録があり、2021年11月～12月で延べ99回の食料品・日用品の受取り利用があった。</p> <p>4) 厨房施設が整備され、登録家庭に対して、2021年12月に2回 弁当配布を行った</p> <p>5) 本事業で実施した勉強会には、中間支援者だけでなく、子どもの支援に関わる関係者や自治会関係者などの参加があり、これまでとは違った属性の方とともに今後のしくみづくりの必要性を認識する機会となった。</p>
-----	---

V. 活動

活動	進捗	概要
冷蔵庫や冷凍庫の購入、搬入および設置	遅延あり	施設の賃貸契約し、改修工事を実施。2021年10月倉庫や厨房設備の設置、開錠システムの導入はでき、11月2日に開所式を行った。冷凍庫・冷蔵庫は生産の遅れから2022年1月納品予定。
厨房機能の新設工事	ほぼ計画通り	〃
開錠システム導入手続き、倉庫への施工	ほぼ計画通り	〃
ハード整備の進捗や完了について情報発信および協力者への寄付呼びかけ	ほぼ計画通り	本事業の展開や共感者を増やしていくための計画を策定し、個別の声かけ、HP・SNS・チラシ配布、マスコミを活用した情報発信などの広報活動を行った。また、行政向けには別途説明会を実施した。 子育て支援に関わる関係機関などを通じて、対象となるひとり親家庭向けに周知を行った。 2021年11月～12月の食料品などの寄付者登録数 56 利用登録 14家庭
自主的な財政基盤の強化や民間主体による課題解決へのしくみづくりに関する外部アドバイザーへの相談・協議など	計画通り	本事業の展開や共感者を増やしていく計画策定のために、全国コミュニティ財団協会よりアドバイザーを派遣（オンライン）してもらい、先駆的な取組みについて話を聞き、自団体や本市に於いて実践するための検討を行った。9月に短期～中期的な計画を策定、その後事業の進捗とともに11月に再検討を行った。
自団体の中長期的ファンドレイジング計画と短期行動計画案の策定	ほぼ計画通り	〃
民間主体での課題解決のしくみづくりに関する勉強会の開催	計画通り	全国コミュニティ財団協会よりアドバイザーを派遣（オンライン）してもらい、民間主体の課題解決のしくみづくりについて、戦略的な内容と事務的な実務の話を聞く勉強会を行った。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	当初は新たな倉庫と冷蔵庫・冷凍庫・厨房設備を備えるという単純な機能拡充を想定していたが、岡山県で始まったコミュニティフリッジ（一般社団法人北長瀬エリアマネジメント運営）の取り組みのネットワークに加入し、ノウハウ移転を受けることでの食品管理や寄付者管理のIT活用や作業の効率化、全国的なメディアで取り扱われる波及効果などのメリットを受けることができた。
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>新型コロナウイルス感染拡大予防のため、子ども食堂などの活動は不安定な状況が継続している。</p> <p>人との接触は避けながらも必要な家庭に食支援を届けることができる本事業について、行政向けの説明会なども行ったことによって、子育て支援に関わる様々な担当課や関係団体で、支援の1つとして認識されてきている。</p> <p>食支援が整ってくると、次に学用品などの支援や学習支援のニーズなどが寄せられるようになって来ており、連携している関係機関とともに、新たなしくみづくりを検討している。</p>
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
(一社) 北長瀬エリアマネジメント	コミュニティフリッジネットワーク加入、ノウハウ移転を受けた。
(公財) 全国コミュニティ財団協会	アドバイザーの派遣を受け、先駆的事例の勉強会や自団体内の協議に参画してもらった。
防府市子育て支援課、社会福祉課、学校教育課	対象者への周知の協力
子ども食堂、SSW、民生児童委員	〃

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	8,079,000	8,011,144	99.2%
	管理的経費	0	0	#DIV/0!
合計		8,079,000	8,011,144	99.2%
補足説明		特になし		

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	2021年11月2日 NHK、KRY、山口ケーブルテレビジョン 2021年11月3日 山口新聞、11月4日 読売新聞、朝日新聞 11月9日 ほうふ日報（データ添付）
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	コミュニティフリッジ広報用チラシ（データ添付）
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	コミュニティフリッジ入口にシンボルマークシールを貼付
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	役員の報酬等並びに費用に関する規程、倫理規定、コンプライアンス規程、内部通報規程、情報公開規程、リスク管理規程を整備
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	近日中に公開予定
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	定期総会は年1回実施、理事会は2か月に1回のペースで実施
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	理事会の際に実施
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	いいえ	近日中に公開予定
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	担当者を理事会で任命
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	具体的内容は検討中
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	

XII. その他

自由記述
